

古文書を読む会学習記録

作成日 平成25年12月1日

開催日	平成25年11月28日	時 間	10:00～12:00
場 所	金沢地区センター小会議室	出席人数	14 名
講 師	真田雅行氏	作成者	大門 利晴
テーマ	第二学習 秋葉山詣②		
概 要	<p>1. 文政8年1月(先発組帰路)</p> <p>十九日 天気 早朝出発。興津川を越えて、サツタ峠の風景が良かった。由井、蒲原を越え富士川を船で渡り吉原で昼飯、柏原で酒を飲み、夜に沼津の元問屋に泊まる。</p> <p>二十日 天気後曇り雪が少々。 早朝出発。三島大明神へ参詣。坂に入り三家、山中宿を経て箱根で昼飯。関所を越え畑宿で細工物(所謂「箱根細工」)を買い、夜に入って湯本福住屋に泊まる。</p> <p>二十一日 天気 福住屋を駕籠で立ち、小田原、酒匂川を過ぎ、梅沢島屋で昼食、そして酒。大磯宿の丁子屋に泊まる。</p> <p>二十二日 天気 ただし春風寒い。 朝早く丁子屋出発。平塚宿で神奈川へ手紙を書き、問屋に頼んだ。南郷西村屋で昼食、酒。ここから江ノ島へ行き、橋屋に泊まった。</p> <p>二十三日 大雪屋時より快晴 橋屋を出て弁天へ参詣後、藤沢へ。戸塚で駕籠を二挺頼み、日暮れに保土ヶ谷へ着き、神奈川台下町内の者一同が出迎えてくれた。帰宅後休む。留守中の事、丹蔵殿外が来て話してくれた。</p> <p>二十四日 大雪屋より快晴 餞別・留守見舞い等くれたところにみやげ物を送った。</p> <p>2. 天保4年1月(後発組出発)</p> <p>九日晴天少し風 年頭、代官、玄関、伊奈様その他御支配元締めを勤めた。、当方は内回り。水野出羽守様玄関から南町奉行所玄関まで巳の刻から未刻まで勤め、滞りなく宿に着いた。</p> <p>十日 晴天 私達は遠州秋葉山へ代参に付、今日出発と思っていたが、未だ親類共は年頭の勤めをせず、全吹町店へも来る筈のところ甚助に会えず逗留。横町の姉方に行き、そこに治郎吉が来て同道一同宿に詰めているとのこと。甚助宅に行ったがまだ帰っていないので明日出発のことを申残して自分だけ宿に帰った。</p> <p>十一日 晴天 馬喰町宿出発。一同は自分・小島・鈴木。長谷川・間瀬である。鈴木・間瀬両人は組頭宅に行き亥の刻過ぎ戻った。紀州様御参府で御本陣役の田村様の見聞が済み我等の留守の二人が饗応した。</p> <p>翌日用の灯油油絞業も冥加金等は免除、東海道分は江戸油在所へ回し売却、相模等六か国分は問屋に売り渡すべ触れ書を出した。明日秋葉山へ出立の予定、小嶋方にもその連絡一両拝借。講親からは一両一分600文費用代受取り、くたびれたのでそのまま休む、留守役太田殿も逗留するようだ。</p> <p>1) 文政8年(1824)と天保8年(1833)の記録が同じ資料として混在していたためか。秋葉山詣でが少なくとも神奈川在の人たちが二回行っていらしいのはわかる。(先発と後発として分けた)</p> <p>2) 判読不明文字もあるが後発は九日江戸から出発したらしい。</p> <p>3) それにしても旅中よく飲む。疲れて飲まなきゃやってられないということか。</p>		
備 考	<p>・元資料の石井家文書は神奈川県立公文書館蔵。(マイクロフィルムあり)</p> <p>・福住屋は箱根路を馬車が通れるように整備した功績があるそうです(12/29「寺社を巡る会」のバス旅行時に立ち寄った早雲寺のボランティアガイドが説明)。一族の墓が早雲寺に後北条五代の墓と共に大きく扱われていた。</p>		
次回予定	平成25年12月12日 10:00～12:00 金沢公会堂 第一学習 小田原船津家文書		